

# 派遣報告書

平成25年 2月



倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員

梶島 和江



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 派遣期間	平成25年 1月29日(火) から平成25年 1月31日(木) まで
2 派遣先	埼玉県深谷市 山梨県北杜市
3 視察(調査) 議員名	金光隆、福谷直美、梶島和江
4 面会者	深谷市役所 梶島和江、飯野勇人氏、北杜市役所 中田正昭、篠原隆氏
5 派遣目的	親睦大学設置について、倉吉市役所について
6 視察の経過及び感想	別紙の通り
7 添付書類	写真
(1)	
(2)	

要した経費： 3 人合計 250,920 円

## 行政視察報告書

日時 平成25年 1月29日(火)、30日(水)、31日(木)

目的地 深谷市 看護大学の設置について

北杜市 企業誘致について

自由民主党本部 地元選出国會議員への要望活動

参加者 金光 隆、福谷 直美、梓島 和江、

視察経過

1月29日は快晴に恵まれて、鳥取空港を離陸する。予定の時刻10時過ぎ羽田空港に到着。滑走路片隅に数日前に降った雪の名残がみられる。東京都内を通過し埼玉県深谷市へ直行する。

橋上化された深谷駅は、東京駅と同じ赤煉瓦が使われ、深谷のレンガを活かした街づくり、が印象的である。これも学校法人 青淵学園 東都医療大学とふかく関連している。明治20年、深谷に日本煉瓦製造会社を設立した渋沢栄一翁の功績を顕彰しその雅号「青淵」が市のシンボルとして見受けられる。故郷の偉人渋沢栄一翁の生涯行動を規範とし、その人となりに尊敬の念を抱く市民性に敬意を表したい。

深谷市役所 議会事務局長 柴崎和弘氏 企画財政部企画課課長 飯野勇人氏ほか1名  
主に誘致担当飯野氏により説明

### 看護大学設置の経緯、実状、今後の対応について

学校法人青淵学園 東都医療大学 を誘致するまでに、平成18年3月市長決裁により深谷市の高等教育機関誘致を重要施策と位置づけ基本方針を示した

理由は、1、若者の定住を、2、専門職の誘致、3、商業地の振興、4、規制緩和された等々

誘致については、当初から企画課飯野氏ほか1名の専門担当があたった。

学部は、看護系、福祉系にしばった。

深谷市への大学設置希望の有無を調査するために、はがきで回答を求めた。全国4年生私立大学555校、株式会社立大学が認められるため(構造改革特区制度の活用が認められるため)株式会社3,778社に送る。3法人より希望の回答を得た

3法人の中から 1、資金援助、2、設置場所の選定、3、用地交渉など全面バックアップ、等審議し決定した。

19年開学予定であったが、文科省の認可が下りなかった。その理由の一つは、教職員が市内ではなかった。実習先を都内の機関を選んだためであった。

改めて、文科省の実地検査を受け20年4月に開学するに至った主な理由は

1、トップダウン、2、市議会および市民に進捗状況を開示し理解を得る。市報で広報し市民にも看護、福祉の大学が必要だとの気運を盛り上げる。一番大切なことでもあった。

- 2、医師の確保、教授の確保は前市長が医師であったので、容易に道筋がついた。
- 3、医療法人の関連による大学から教授を派遣してもらう
- 4、実習は20キロから30キロ圏内の病院と都内の病院
- 5、7割近くの生徒は、50%以上は市の周辺から通える
- 6、入学定員100人、収容定員400人、平成24年10月1日現在、421人在籍

医療大学設置に成功した深谷市の企画課は、まちづくりの重要施策である高齢化社会に対応するための専門職の育成および福祉施策の充実、地域経済の拡大にも寄与された。将来卒業生が、地元の医療機関、福祉施設に就職することが期待できる。

開学後、課題となるべく事項は何もないとのことである。

深谷ねぎの畑が続く田園都市に赤煉瓦の橋上駅、若者のにぎわう商業の発展が期待できる街、故郷の英雄渋沢栄一の学んだ「論語」の精神を重んじ「論語の里めぐり」と称して、栄一ゆかりの史跡案内のパンフレットが印象にのこる。

これからの倉吉市の発展も学ぶところの多い《看護大学誘致》の視察でした。

1月30日空は澄み切っているが、風が冷たい。車窓で雪に輝く富士の高嶺を眺め約2時間高速道を走る。途中笹尾トンネルを通過、事故のトンネル近くには工事の車両、現場コンテナが見える。事故後の風評被害もあって、北杜市への観光客が減少したらしい。

観光事業も交流人口の減少が痛手となる。日本の名峰八ヶ岳が近くに感じられる中央道須玉バス乗り場で下車。

田んぼのど真ん中、庁舎らしき建物も見当たらない、お昼前である。13時に市役所に入るため近くで食事をとると、周囲を見渡すが食堂どころか店もない、2キロほど遠くに店があると教えられたがタクシーもない。一食抜いてどうってことない。とりあえず市庁舎を探す。学校の校舎を改装したといわれる市庁舎に到着。お昼のチャイムが鳴り職員が弁当を広げる。さらに空腹を感じる、我慢していると移動販売の方がパン、ジュースを販売している。おにぎり4個、パン1個のこっている。さっそく昼食にありつく。

13時北杜市役所 産業観光課

商工観光課長 中田二照氏 商工課商工担当 篠原隆氏 により説明

## 企業誘致について

北杜市は首都圏から2時間、名古屋から2時間と交通網に恵まれた場所である。隣の長野県は山間部で工業用地を確保することは困難、中堅企業は事業拡大、新分野への進出を考えると、首都圏の西部が手狭になった。

ちょうど、高速道路が完成した。日本を代表する山岳景観に恵まれ、清らかで豊富な水資源、高原性の気候、歴史的な街並み、滞在型温泉地、など他市にない特色を生かした企業誘致に努力。天然水を活かしたサントリーの「南アルプス天然水」。コカコーラ系列の豆腐やお菓子の工場。平成の名水1か所、湧水名水100選2か所あり食品関係のイメージアップにマッチする。

最近 農業生産法人 村上農園の「豆苗」生産工場は全国でも注目され北杜市の宣伝にもなっている。ほうれん草よりも、小松菜よりも栄養価が高く調理も簡単忙しい主婦にも好評。実は、2月5日（火）8時15分からNHKの「あさイチ」番組で①大人気安くて高栄養「豆苗」と北杜市の高原に広い水耕栽培工場が映し出された。

平成19年企業立地について、経済産業省より功績を認められた。

太陽光発電についても、日照時間が長く平成21年4月22日に北杜サイトメガソーラー北杜市太陽エネルギープロジェクト事業として経済産業省の「新エネ百選」に選定された。

水力発電、小水力発電など、大企業の子会社など進出し市とともに地球温暖化、エネルギー問題の解決に、効果的・効率的に寄与する先進的な事業モデルを実施している。

観光客は実人数年間 約350万人 延べ 約600万人 7月下旬から8月上旬が多い。ことしはトンネル事故の風評被害によりスキー客も激減している。

中小企業の誘致にも努力し企業誘致セミナーにも参加し、都内の企業立地フェアーにも昨年と今年参加している。

観光キャンペーンは月1回、首都圏、名古屋、大阪にでかけPRしている。

北杜市は 人口 48,760人 世帯数 20,313世帯

総土地面積 602,89km<sup>2</sup> 一般会計 286億

1月31日

自由民主党本部を訪問 石破幹事長に要望書提出